

■ 令和5年度 銀の鈴幼稚園 自己評価報告書

- (1)評価実施日 令和6年3月21日(木) 自己評価 調査書回収後集計
- (2)実施対象 銀の鈴幼稚園本務教諭9名 回答数9名 回収率100%
- (3)実施方法 自己評価項目の設問に4段階で答える。
1十分にできた 2.できた 3あまりできなかった 4できなかった
- (4)結果集計による評価

各項目を集計し、比率を公表する。75%以上を評価上「良好」とする。

以上の結果を、3月25日(月)、年度末会議において下記の回答分析を共有し、後日行われる学校関係者評価とともに、ひとり一人の教育保育に携わる課題を認識し、教育活動の充実と質向上へとつなげていくことを目的とする。

(5)教育目標

「みほとけさまを中心につよく、あかるく、げんきにのびる」

日々の教育は幼稚園教育要領で目指す「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」という幼児教育のバランスをもとに幼児教育の原理、科学、技法、心理的働きかけ等を、日々の具体的な教育案に反映する。

その教育案を具体的な週案日案として計画しながら、願われる子ども像に近づけるよう、指導支援を行う。またご家庭への理解と協力をお願いし、保護者の皆様の幼稚園生活や行事への参加を呼びかけ、幼稚園一子ども一家庭の「つながり」を大切にして保育教育に取り組むこととする。

【重点項目】

1. その子にふさわしい発達を身につけ、自己肯定感をはぐくむ。

安心感を前提に、他者と協力して毎日を楽しみながら喜怒哀楽をたくさん経験し、その子どもにふさわしい、その子ども独自の発達を受け入れ、尊重して、遊びや成長を支援する。

2. 生活の中で支え合い、協力しあうことで、社会性、協調性をもつ。

生活習慣を身につけること、十分に自己発揮できるあそびに没頭すること、一定のルールの中で協調したりがまんしたりすることを重ね、緊張や自律と穏やかな気分の繰返しの中で、先生、お友達との関係を知り社会性 を身につける。

3. 自分の心やイメージを感じ取り、情操と感謝をもてる子ども

銀の鈴幼稚園では、仏教の教えを背景とした幼児教育を行う。

《生命尊重》「皆かけがえのない一人ひとりであることを自覚する」

《報恩感謝》「自分への恵みに感謝してその恵みに応えていく。」

《和合精進》「人はつながりの中で生きる・思いやる・認め合う・ささえあう」

という仏教の教えをもとにした幼稚園生活を営み、目に見えない自分の内面と出会い、命のつながり、時間や空間の不思議さ、敬虔さを抱ききかけをつくる。また様々な場面で感謝の気持ちをもって過ごしていく。

(6)設問並びに回答の比率 (1+2 肯定的解答 93.2P 3+4 否定的解答 16.8P)

1.全般について

- | | | | | |
|--|-----|-----|-----|----|
| ① 園の教育目標や方針、仏教保育の意味を理解し保育の中に取り入れようとしたか。 | 1+2 | 100 | 3+4 | 0 |
| ② 幼稚園教育要領を理解し、子どもの主体性を導く様な働きかけをすることができましたか。 | 1+2 | 100 | 3+4 | 0 |
| ③ 子どもの動き、子どもの興味や関心を考慮し、天気など様々な場面をイメージして指導計画を立案することはできましたか。 | 1+2 | 100 | 3+4 | 0P |
| ④ 前例ばかりに依拠することなく、時代に合った新しい保育の方向を取り入れていますか。 | 1+2 | 72 | 3+4 | 38 |
| ⑤ 子ども達・保護者にはいつも明るい態度で挨拶することはできましたか。 | 1+2 | 100 | 3+4 | 0 |
| ⑥ 自分の保育を振り返り、反省点や改善点を見付け次へ生かそうと努力していますか。 | 1+2 | 100 | 3+4 | 0 |

2.子ども達とのかかわりについて

- ⑦ 子ども達や保護者に対して丁寧な言葉遣いで対応出来ましたか。 1+2 100 3+4 0
- ⑧ 子ども達の呼び方は適正でしたか。 1+2 100 3+4 0
- ⑨ 子どもの間違いにも禁止語や命令語はなるべく避け、肯定的な物言いで悪いことを伝えるときにも子ども自身が考えられる様にしてあげられていましたか。 1+2 98 3+4 2
- ⑩ 登園時には必ず視診を心掛け、保育中の子ども達の体調の変化(顔色・表情・食欲)に気づいたりする様に注意し、対応することは出来ましたか。 1+2 100 3+4 0
- ⑪ 子どもの身体に虐待によるあざや傷がないか時々チェックしましたか。 1+2 81 3+4 19
- ⑫ 不適切保育と呼ばれる内容について、意識し自分の見直しをしましたか。 1+2 100 3+4 0
- ⑬ 子どもの気持ちを考えて、一人ひとりに合った対応を心掛けられましたか。 1+2 100 3+4 0
- ⑭ 子どもの喜び・悲しみ・不満感を共有共感してあげることは出来ましたか。 1+2 100 3+4 0
- ⑮ 同じ年齢であっても個人差があることを理解し、子ども同士が繋がりがあえる様に関わることは出来ましたか。 1+2 100 3+4 0
- ⑯ 一人ひとりの発達を理解した上で見通しを持って課題を見付けてあげられましたか。 1+2 100 3+4 0
- ⑰ 自然の事象など保育に取り入れ、活かすことは出来ましたか。 1+2 82 3+4 18
- ⑱ ケンカも育ちの場と考え、見守りや危険が認められた際の仲介など、その時の状況や子どもの状態に合わせ対応を変えることは出来ましたか。 1+2 100 3+4 0
- ⑲ 自分のクラスの子もだけでなく、様々な子どもの様子や情報を職員全体で共有し、見守ったり関わったりする様にしていましたか。 1+2 100 3+4 0
- ⑳ 結果よりも子どもがその出来事の課程を楽しんで、頑張ってきた姿を認められる様な保育をしてられましたか。 1+2 90 3+4 10
- ㉑ 特別支援を必要とする子ども達の発達を考慮した上でその子どもに応じた配慮を心掛けましたか。 1+2 100 3+4 0
- ㉒ 子どもに関する専門性を高めるための研修会や W ショップなどに積極的に参加されましたか。 1+2 72 3+4 28

3.保育・行事の企画。準備。

- ㉓ 衛生的な環境、感染拡大予防を行いましたか。 1+2 100 3+4 0
- ㉔ 固定遊具やその他の遊具の安全に留意し、定期的に目視で点検するなど危険箇所がないか把握しましたか。 1+2 90 3+4 10
- ㉕ 園の備品など大切に使うことは出来ましたか。 1+2 100 3+4 0
- ㉖ 保護者・保育者からの伝言も正確に相手に伝えられましたか。 1+2 100 3+4 0
- ㉗ 教職員全員でひとつのチームであることを意識して仕事をする事が出来ましたか。 1+2 100 3+4 0
- ㉘ 子どもの対応に困った時、関わり方や解決方法を教職員間で話し合うことは出来ましたか。 1+2 100 3+4 0
- ㉙ 保育のプログラムの臨機応変な変更なども教職員間で話し合い、実施できましたか。 1+2 100 3+4 0P
- ㉚ 行事を行う際、教職員間で十分に話し合い、共通理解をはかれましたか。 1+2 82 3+4 18
- ㉛ 教職員会議の場で自分の考えを発言することはできましたか。 1+2 90 3+4 10

4.保護者や地域との関り

- ㉜ 保護者からの質問や相談に適切に応えられましたか。一人で判断出来ない事に対しては職員間で話し合っって伝える様にしていましたか。 1+2 100 3+4 0
- ㉝ 個人情報の取り扱いを十分に理解し、取り扱っていましたか。又、保護者のプライバシーや情報、噂話などむやみに口外することはありませんでしたか。 1+2 100 3+4 0
- ㉞ 保護者からのクレームや、適正な要望事項に対処して対応し、チーム共有できましたか。 1+2 100 3+4 0
- ㉟ 保護者との距離感を保ち、公私混同せずに関われましたか。 1+2 100 3+4 0
- ㊱ 子どもがケガをした時などその状況と処置を保護者にわかりやすく伝えられましたか。又、その後の様子を尋ねたり、園での様子も保護者に伝える等、必要な事後処置をしましたか。 1+2 100 3+4 0
- ㊲ 地域の繋がりも大切であることを認識し積極的に挨拶や交流の機会を持ってましたか。 1+2 78 3+4 22

令和5年度 教職員自己評価結果

肯定的回答93.2 否定的回答16.8



(7) 総合自己評価結果 93.2 ポイント

令和6年度は新型コロナウイルスも終息し、通常通りの教育活動に向かうことができた。しかし令和5年度は新入園児が募集定員の75%まで落ち込み、大きく園児数が減少した。コロナで変更縮小などをした保育内容や行事について、再びその内容や実施方法を再検討するとともに、より少子化が進むであろう状況の中で、持続可能な園運営を模索し始めることとなった。

教育活動についてはおおむね良好である。これからも連絡、報告、相談を密にして教育案をもとに実施をしていく。

1-4、前例にとらわれて、今の幼児教育で重視される内容を取り入れる意識が下がること。2-20 結果が良いことが成果であるとする風潮を、教育の経過の重要性も反映させていくこと。2-11 近年増加する虐待事例やネグレクトなど、幼児の置かれている負の実態に意識を高く持つ必要がある。2-22 園運営の諸事情により、研修活動に時間や労力を割きにくくなっている点が、教育の質向上を考えるうえで引き続き課題である。

これらの課題を乗り越えるためにも、チームとしての方向性が今一度認識されなければならないと考える。

■ 令和5年度 銀の鈴幼稚園 関係者評価報告書

- (1)評価実施日 令和6年3月25日(月)～3月28日(木) 関係者アンケート回収
(2)実施対象 令和5年度在籍児保護者52名・学校評議員5名 回答者42名 回収率74%
令和5年3月29日(金)園長・学園評議員・保護者5名により評価委員会開催

- (3)実施方法 「幼稚園における学校評価ガイドライン」をもとに重点項目・設問等を設定
評価項目の設問に5段階で答えた関係者評価アンケートをもとに実施。
1 すごく思う 2 思う 3 どちらともいえない 4 思わない 5 わからない

(4)結果集計による評価

各項目を集計し、比率を公表する。75%以上を評価上「良好」とする。

以上の結果を、3月29日(金)評価委員会において自己評価結果と共有し、銀の鈴幼稚園における教育保育に携わる課題を認識し、銀の鈴幼稚園教職員、理事評議員において共有する。それをもって教育活動の充実と質向上へとつなげていくことを目的とする。教育目標、重点課題については自己評価報告書参照。

(5)設問並びに回答の比率 (肯定的解答・1+2 82P 否定的解答・4 2P その他 3+5 16P)

1.教育内容について

- | | |
|--|---------|
| ① 教育内容や教育課程、教育案などの編成は適切である。 | 1+2 86P |
| ② 子ども達の「やりたい」を尊重し、子どもの主体性を導く働きかけをしている。 | 1+2 77P |
| ③ 教育、保育を通して、子どもの自己肯定感や意欲、協調性、社会性が高まっている。 | 1+2 86P |
| ④ 教育、保育を通して、その子どもの姿や年齢なりの発達や成長を身につけている。 | 1+2 86P |
| ⑤ 在籍時の教育、保育を通して、子どもに感謝の気持ちや情操、感性が育まれている。 | 1+2 86P |
| ⑥ 子どもにとって保育日数、保育時間は適切である。 | 1+2 77P |
| ⑦ 子どもにとって施設設備、遊具、教材等は適切である。 | 1+2 74P |
| ⑧ 子どもにとって行事の時期や回数、内容は充実している。 | 1+2 80P |
| ⑨ 友達との関係性や、広がり築くことができている。 | 1+2 83P |
| ⑩ 次年度学年、小学校進学などへの接続は無理なく円滑である。 | 1+2 80P |

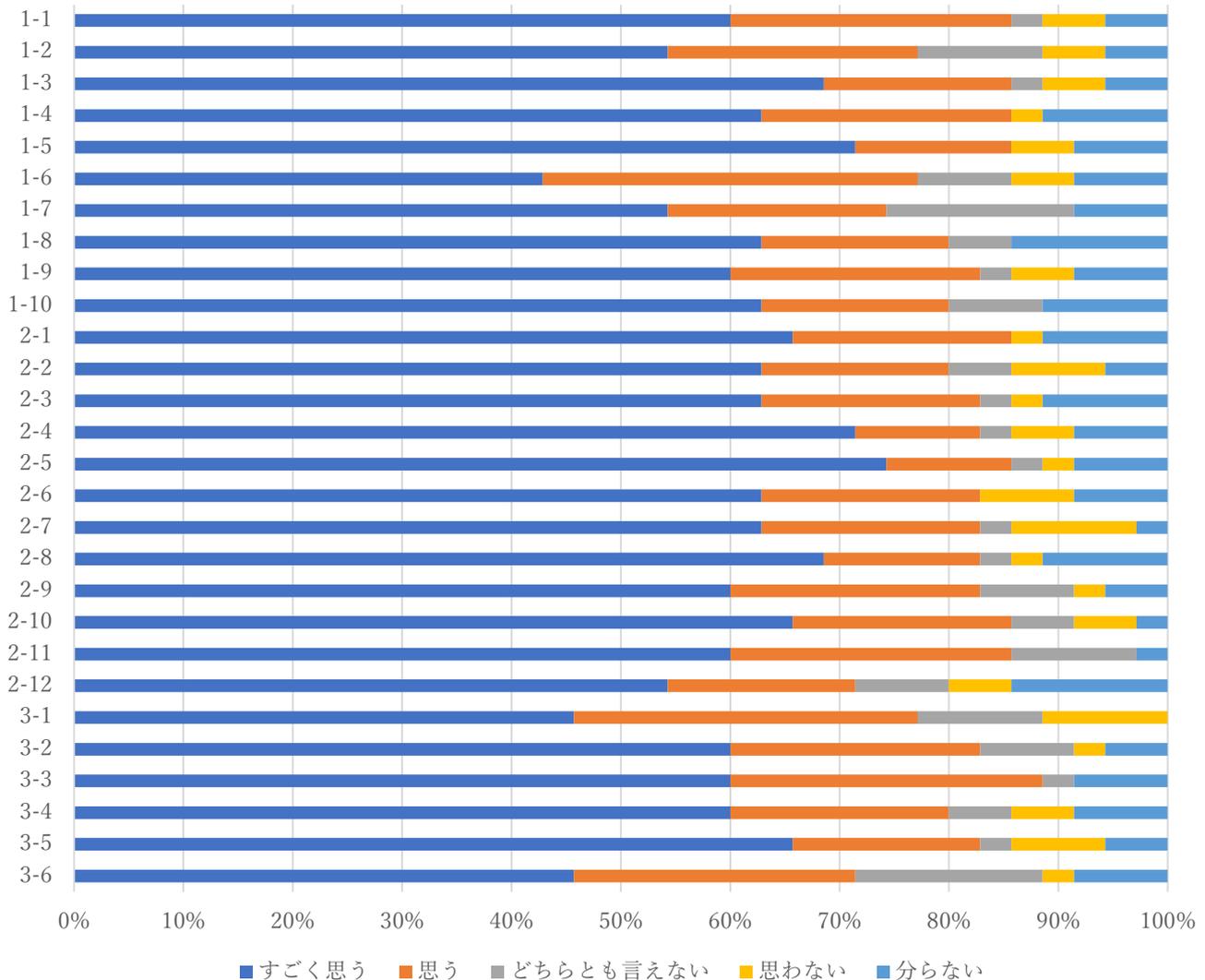
2.教職員について

- | | |
|--|---------|
| ① 教職員の言葉遣いは適切である。 | 1+2 86P |
| ② 子ども達への言葉かけは禁止語、命令語などの言葉かけではなく、子どもに配慮されたものとなっている。 | 1+2 80P |
| ③ 子どもの気持ちを理解し、子どもの喜びや意欲、悲しさや不満感等に共感している。 | 1+2 83P |
| ④ 発達に課題のある子どもへ、支援意識がある。 | 1+2 83P |
| ⑤ はきはきと明るい態度や笑顔で子ども達や保護者に接している。 | 1+2 85P |
| ⑥ 子ども同士のケンカやトラブルに公平感を持って対応している。 | 1+2 83P |
| ⑦ 安全意識、衛生意識をもって教育、保育に取り組んでいる。 | 1+2 83P |
| ⑧ 教職員全体がチームとしてまとまって保育や教育、行事に取り組んでいる。 | 1+2 83P |
| ⑨ 保護者から相談を受けやすい態勢をとっている。 | 1+2 83P |
| ⑩ 保護者からの質問や相談に適切に対応している。 | 1+2 86P |
| ⑪ 保護者に子ども達の様子をよく伝えている。 | 1+2 86P |
| ⑫ 保護者からのクレームに対して適切に対応している。 | 1+2 72P |

3.その他の事項

- | | |
|--|---------|
| ① 通知、メール配信、ホームページ、アプリ、SNSなどで幼稚園の様子が伝わっている。 | 1+2 77P |
| ② 安全(防災防犯)意識、衛生意識をもって運営されている。 | 1+2 83P |
| ③ 個人情報管理や守秘義務管理は適切に行われている。 | 1+2 89P |
| ④ 不測の事態の際に情報配信などの対応は適切である。 | 1+2 80P |
| ⑤ 預かり保育など子育て支援の態勢は適切である。 | 1+2 83P |
| ⑥ 地域とのつながりを大切にしている。 | 1+2 71P |

令和5年度関係者評価結果
肯定的回答 82P 否定的回答(わからない含む)18P



(7) 総合関係者評価結果 82 P

幼稚園関係者評価はおおむね良好である。

「子どもにとって保育日数、保育時間は適切である。」「子どもにとって施設設備、遊具、教材等は適切である。」「保護者からのクレームに対して適切に対応している。」の項目で肯定的回答が 77P と 80pを割り込んでいるが、「どちらともいえない」「わからない」の回答を含みまば肯定的回答と受け取ることができる。

また 3-5「子育て支援」3-1「園の様子が伝わっている」1-7、2-7「安全、衛生への意識」2-6「子どものけんか対応」2-2「禁止語などの言葉かけ」について否定的回答が見られた。

コロナ終息後の地域社会の変化、少子化等による園児減少、幼稚園を取り巻く環境が変化している中で、幼稚園関係者、特に利用者である保護者のニーズや教育への意識が高まり、加えて共働きの増加など、子育て支援的な方向に集まりつつあるように感じる。

それは自由記述にも記載される「バス」「給食」「預かり保育」「課外教室」「情報配信」などに対する意見からも読み取ることができる。

国や自治体の子育て施策も新設される中で、銀の鈴幼稚園のよさを消すことなく、幼児教育と子育て支援の連携、様々な制度への対応しながらバランスをとっていくことが重要となってくる。また園の教育活動の質向上、子育て支援に対する保護さやの満足度を高めていくために、教職員のチーム保育を発揮していくべきである。

自由記述欄:

子ども達の日常の様子の情報提供・発達相談や介助・給食の選択制や内容・バスの運行・預かり保育内容・課外教室・振替休日、アプリ活用、保護者参加、入園募集・・・などのご意見、幼稚園生活へのたくさんの感謝のお言葉を頂きました。 以上